

「三重県 心のノート」活用事例

校種	小学校	学年	5・6年	内容項目	1 - (2)
主題名	目標に向かって努力を積み重ねることの大切さ				
資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・たゆまぬ努力で困難をのりこえる 本居宣長 「三重県 心のノート 小学校5・6年」(三重県教育委員会) ・社会科資料集(進学社) ・ビデオNHKデジタル教材2012年度第14回 江戸時代の学問の一部抜粋 ・本居宣長記念館に電話での聴き取り 				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・策や方法にとらわれず努力と継続の大切さを宣長の生き方を通して感じる。 ・今の自分に必要なこと、目標をもって取り組むことの素晴らしさを考える。 				
展開	学習活動と主な発問			指導上の要点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会科で学習した本居宣長の経歴を振り返り、どのようなことをした人物か確かめる。(ビデオ視聴3分) 2 『うひ山ぶみ』を読んで、宣長の学びへの姿勢、大切にしていることを考える。プラス面を見つける。 (発問)「宣長が大事だと言っていることは何ですか」 3 『うひ山ぶみ』を読んで、学びのマイナスになることを見つける。 (発問)「学びでこだわらなくていいことは何ですか」 4 自分の生活の中での取組に当てはめて考える。 (発問)「今の自分にできることはありますか。」 5 教師自身の体験を語る。(18回のチャレンジ) 			<ul style="list-style-type: none"> ・既習の社会科学習を振り返る。 ・プラス面とマイナス面を色分けして自分の気づきを整理する。 ・友だちの考えをしっかりと聞き、表にまとめてクラスの考えをまとめる。 ・友だちと自分の考えを比較して聞く。 ・今の自分に必要なもの、まとめた表の中から一番大事にしていきたいものを決めてできることを考える。 ・友だちの支えとあきらめない気持ちの大切さを伝える。 	
他の教育活動との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科、江戸時代の末期の文化の変化、民衆の生きる力を確かめる。 ・自分の思いをやり抜く強い決意とやり遂げるための人のつながりを確かめる。 ・自分だけの力では届かなくても励ましや協力で進んでいけることに気づく。 				

成果と
課題

- 社会科の学習と関連させ、地元の人物を取り上げて詳しく学習することができた。
- 自分で決めた目標に向かって進んでいくには困難はあるが、励ましや人のつながりの中で勇気に変えていくことが出来るということを学んだ。
- 一人で苦悩するよりも謙虚に学ぶ姿勢を貫くことで、新しい道が開けてくるきっかけとなることを学んだ。
- 教科書に出てくる人物の功績に触れるだけでなく、そこに懸ける思いを知り、人としての生き方を通して功績を見直すことが出来た。
- 複式クラスでの時間確保は制約が多いため、社会科6年生の単式授業を活用することになり、学級経営と連動させるには5年生と学ぶことが難しい。
- 社会科の進度と授業の組み立てを計画する際に、あらかじめ掲載箇所を把握していると活用しやすい。短編の動画、画像等があると活用しやすいと思う。

本居宣長に学ぶ



○本居宣長ってどんな人？

京都で_____になる勉強をしていた時に、興味のあることに出会う

_____の研究【_____を知ろう】

(一番古い歴史書)

5年もかけて調べた(実はこの二文字について本を1冊書いている!!)

最初の二文字って? _____

○出会いは偶然か? 「松阪の一夜」

真淵先生 → 宣長と似ているところは、_____

何を調べていたか _____

学問の研究に必要なこと _____ 正しく

まず、 _____ それから _____ 達する

☆『うひ山ぶみ』からさぐる

「学問というのは、ただ年月長く倦ず怠らず、励み努めること。つまり継続が大事で、方法はたいした問題ではない。どれだけ方法が立派でも、怠けて努力しなければ、成果を得ることは出来ない。また、才能の有る無しで、成果に差は出てくるが、才能の有無は生まれつきのことだから、人の力ではどうにもならない。だけどほとんどの場合、才能のない人であっても、怠けないで努力すれば、それだけの成果はあるものだ。また、学び始めるのが遅かった人でも、努力すれば、予想を上回る成果を上げることもある。忙しい人も、かえって暇な人よりも成果を上げることがあるものだ。結局は、才能がないとか、学び始めるのが遅いからとか、忙しいと理由をつけてあきらめてはいけない。とにもかくにも一生懸命努力すれば、出来るものだと考えたほうがいい。何でも途中で断念するのは学問の大敵である。」

『うひ山ぶみ』(現代語訳)
